



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

彙報. 人文學報 2005, 92: 233-256

ISSUE DATE:

2005-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/48662>

RIGHT:

# 彙 報

2004 年（平成 16 年）1 月～2004 年（平成 16 年）12 月

## 研 究 状 況

### I 班 研 究

#### 人文学研究部

##### 明治維新期の社会と情報

班長 佐々木克

本研究班では、明治維新という変革期を〈情報〉をキイ・ワードに読み解き、政治文化をめぐる諸問題を照射してきた。1996 年 4 月から報告を積み重ね、最後の年では幕末期の政治情報の動向を中心に研究を進めた。その集大成として 2004 年 3 月にシンポジウムを開催し、それをもって班は終了した。8 年間にわたる研究の成果は、佐々木克編『明治維新期の政治文化』と題する報告書（思文閣出版、2005 年 9 月刊行）で公表した。

班員 高木博志、高階絵里加、谷川穰（以上所内） 青山忠正、原田敬一、笹部昌利（以上仏教大） 長志珠絵（神戸市外大） 落合弘樹（明治大） 小股憲明（大阪女子大） 勝部真人（広島大） 岸本寛（鳥取大） 黒田信二（呉工業高専） 小林丈広（京都市歴史資料館） 佐藤隆一（青山学院高等部） 鈴木栄樹（京都薬科大） 谷山正道（天理大） 塚本明（三重大） 羽賀祥二（名古屋大） 福井純子（立命館大） 松延真介（東海大仰星高） 三沢純（熊本大） 母利美和（京都女子大） 藪田貫（関西大） 奈良勝司（立命館大・院） 平良聡弘（京都市大・院）

1 月 16 日 幕末期「政令一途」をめぐる政治状況  
白石 烈（広島大・院）

3 月 12 日 シンポジウム 「明治維新 — 変革期の研究とその視座」

明治維新と「解放令」

今西 一（小樽商大）

明治維新と葵祭 高木

幕末維新の公議論をめぐって

山崎 有恒（立命館大）

不平と漂泊 — 明治の士族 — 落合

大元帥の成立 — 天皇の統帥命令の起源 —

永井 和（文学部）

コメント

佐々木

##### 記憶と歴史 — 満洲縁故者の場合 班長 山本有造

記憶の歴史化について、個人的記憶と集团的記憶について、オーラル・ヒストリーとライフ・ストーリーについて、広義の歴史学各分野で近年広く関心を集めている。この大きな問題を、引揚げ体験を中心とする満洲縁故者の場合という具体例に引きつけて考えようとする。

日本植民地史、中国現代史、歴史社会学、政治史等、各分野の研究者の参加を得て、隔週金曜日に定例研究会を開催している。2002 年 4 月から約 2 年の研究会ののち、2004 年 1 月からは報告論文集のための草稿検討会に入り、2004 年 4 月終了予定。

班員 藤原辰史 山室信一（以上所内） 蘭信三（学内 留学生センター） 西村成雄（大阪外大） 松本俊郎（岡山大・経） 猪股祐介 上田貴子 坂部晶子（以上日本学術振興会特別研究員） 小都晶子（大阪外大・院） 南誠（京大・院）

フェティシズム研究の射程

班長 田中雅一

本研究会はフェティシズムあるいはフェティッシュをキーワードに文化横断的かつ領域横断的に、人との、社会とものについての議論を展開してきた。理論的な関心から言えば理念のみで論じられているかに見える agency 論をなんとか克服していきたいと考えている。その意味でフェティッシュ論はなお、これまでの研究成果である主体や自己についての議論を継承している。考えられるアプローチは宗教学、経済学、歴史学、精神分析、性科学、フェミニズム研究、物質文化論など多岐にわたる。最終年度になって、ミニシンポを開くかたちでようやく芸術にたどり着くことができた。

班員 大浦康介 菊地暁 小牧幸代 高木博志 竹沢泰子 田中祐理子 田辺明生（以上所内） 足立明（AA 研究科） 速水洋子（東南アジアセンター） 松田素二（文学研究科） 宇城輝人（福井県立大） 岡田浩樹 細谷広美（以上神戸大学） 春日直樹（大阪大学） 窪田幸子（広島大学） 斎藤光（京都精華大学） 佐伯順子（同志社大学） 佐藤知久（京都文教大） 田村公江（龍谷大学） 中谷文美（岡山大学） 箭内匡（天理大学） 岩谷彩子（学振特別研究員） 金谷美和（日文研研修員） 川村清志（大阪外大非常勤） 中谷純江（民博研修員） 藤本純子（大阪大学大学院文学研究科） 小池郁子 宮西香穂里 李雲文（以上京都大学大学院人間・環境学研究科）

1月19日 平和のフェティシズム考：文化的フェティシズム批判を超えて 松田 素二

2月2日 「売ったり買ったり」と「あげたりもらったり」のあいだ：フランスのある SEL（地域交換システム）における交換

中川 理（学振特別研究員）  
交換システムの解釈学：スペイン・カタルーニャの場合

織田 竜也（民博共同研究員）

2月23日 絵画者とはだれか？

中村 宏（画家）

3月1日 偶像、アイコン、もの：現代キリスト教神学に見るものへの裏口

佐藤 啓介（京都大学文学研究科）

3月15日 内在権力の建築（Architecture of Immanent Power）

内山田 康（筑波大学）

5月31日 打ち合わせ

7月10日 シンポジウム 複製技術時代の文化人類学

剥製技術から複製技術へ 田中 雅一  
複製技術の原初形態としてのトーテム

慶田 勝彦（熊本大学）

増殖する仏陀 韓国仏教における物質化と複製、そしてポップカルチャー

岡田 浩樹

複製技術と礼拝価値 南インドにおける「映画館で映画を観る」ということ  
桑原 知子（九州大学）

コメンテーター

箭内 匡、杉本 良男  
（国立民族学博物館）

10月4日 打ち合わせ

12月6日 生きている自然と地域経済の関係に関するアダム・スミスの言説

コーリン・ダンカン  
（カナダ・マギル大学）

微視的歴史、資源利用、そして地域経済

ルース・サンドウエル

（トロント大学オンタリオ教育研究所）

1960年代の研究

班長 富永茂樹

1960年代は、われわれの生活と意識がそれまでのものから大きく変化した時代であった。しかもその変化は世界的な規模で生じたこと、また生活のさまざまな領域において認められること、さらに日本についていうなら、明治維新や第二次世界大戦後の変化を上回るものであるかもしれないことさえ予想される、そのような変化である。自身がそのいくぶんかを生きた時代、また現在からほど遠くない時代について何ごとかを語り、結論を抜き出すのは決して容易なことではない。だが1960年代をつうじての世界の変貌が、今われわれのいる世界に直接に

つながっているかぎりにおいて、その腑分けを行うことはわれわれ自身を知るうえでぜひとも必要な作業でもある。この共同研究は、以上のような認識に立って、政治史や経済史もさることながら、日常生活から学術や芸術にまでいたる多様な側面での世界の変化に注目して、また 1940 年代生まれの、いわば 60 年代を生きた世代から、70 年代生まれの、つまりこの時代については語られた記憶しかもたない世代までが集まって進めることに努めたものである。本研究は 2005 年 3 月に終了した。目下そのまとめ、報告書の刊行に向けて検討の作業を進めつつある。

班員 籠谷直人 加藤和人 田中祐理子 藤原辰史 山室信一（以上所内）伊從勉 大澤真幸（以上人間・環境学研究科）加藤幹郎 大黒弘慈（以上総合人間学部）遠藤徹（同志社大）葛山泰央（筑波大）川崎博史（ホロニク）北垣徹（西南学院大）斎藤光（京都精華大）白鳥義彦（神戸大）鳴海邦碩（大阪大）成実弘至（京都造形芸術大）半田章二 疋田正博（以上シー・ディー・アイ）前川真行（大阪女子大）松本日之春（京都市芸術大）光永雅明（神戸市外語大）森口邦彦（社団法人日本工芸会）

- 1 月 16 日 破れた理想 — ディランの 60 年代  
フランソワ・ラショウ（ゲスト）
- 2 月 20 日 1960 年代の日本財界 籠谷
- 3 月 5 日 書物と出版の 60 年代 葛山
- 3 月 19 日 《団塊の世代》をめぐって 富永
- 4 月 16 日 三島自決・再考 大澤
- 5 月 21 日 Connect with '60s 全員
- 6 月 4 日 戦後における性の歴史をいかに考える  
か — 氾濫・解放・開放・革命… 斎藤
- 6 月 18 日 家畜と人間の 60 年代 藤原
- 7 月 2 日 Mes années 60  
フランシス・マルマンド（ゲスト）
- 7 月 16 日 第一次怪獣ブーム 遠藤
- 9 月 17 日 60 年代へ向かう《人口》 田中
- 10 月 1 日 《言葉と物》の 60 年代 葛山
- 10 月 15 日 日本伝統工芸展について 森口
- 10 月 29 日 Liberté, Liberté, où nous amènes-  
tu?  
フランソワ・ジェスマン（ゲスト）

- 11 月 5 日 ミニスカートの 60 年代 成実
- 11 月 19 日 教育の 60 年代（補遺）— 人間と資本  
の 60 年代 前川
- 12 月 3 日 高等教育をめぐる議論と外国 白鳥
- 12 月 17 日 1960 年代の花登筐の仕事Ⅱ — テレビ  
ドラマの時間 川崎

# 国家形成の比較研究 班長 前川和也

この研究班は、人類史のなかでのもっとも重要な営みのひとつである国家形成の諸問題をあつかっている。班員が専門とする地域は東アジア（日本、中国、韓国）、西アジア、インド・イラン、南米アンデス、西ヨーロッパ、オセアニア地域におよび、また班員の専門領域は考古学、人類学、歴史学、言語学、文学の諸分野にわたっている。2004 年 4 月で、研究班は最終年度にはいった。4 月から 7 月まで班員総括報告が行われ、秋には報告書『国家形成の比較研究』のための原稿もでそろい、2005 年春の報告書公刊を目指している。

班員 井狩弥介 小南一郎 岡村秀典 田辺明生 藤井正人 藤井律之（以上所内）伊藤淳史 吉井秀夫（以上文学研究科）石村智 下垣仁志 橋本英将（以上京都大・文・DC）宇野隆夫（国際日文研）角谷英則（津山工専）河野一隆（国立九州博物館準備室）桑原久男（天理大・文）関雄二（国立民博）寺前直人（大阪大・文）中谷正和（総合研究大学院大・文化科学 DC）西江清高（南山大・人文）菱田哲郎 渡辺信一郎（以上京都府大・文）深沢芳樹（奈良文化財研究所）福永伸哉 堂山英次郎（以上大阪大・文）松木武彦（岡山大学・文）森下章司（大手前大・文）

- 1 月 13 日 王権と図像文様 森下 章司
- 1 月 27 日 「ポリスの創造」再考：近年の初期ギリシア史研究の成果から  
周藤 芳幸（名古屋大）
- 2 月 24 日 考古学と近現代史  
穴沢 柱（穴沢病院）
- 3 月 9 日 古墳文化の中心 — 周縁関係成立過程  
河野 一隆
- 4 月 27 日 戦争と首長制・古代国家 松木 武彦  
前方後円墳秩序と「日本型」国家形成

# 人 文 学 報

	福永 伸哉	問題点とを浮き彫りにするのが主なねらいである。
	中央アンデス初期国家の権力基盤：形成期社会とモチェの比較を通して	時代区分としては、フランスでいえば第二帝政と第三共和政の時代、日本でいえば幕末維新时期から昭和10年代あたりまでを想定している。フランスの文学や諸芸術を対象とする研究者のみならず、日欧比較美術史、日本文化史、比較文明史などを専門とする研究者にも加わっていただいている。また正規の
	関 雄二	班員としてではないが、必要に応じて海外からも複数の研究者の協力を得ている。2004年4月からは、
	スウェーデンにおける初期王権と国家	成果報告書の作成にむけて最終的な口頭発表と討議を重ねている。
5月11日	ヴェーダ期に国家はあったか	班員 大浦康介 岡田暁生 高木博志 高階絵里
	藤井 正人	加 森本淳生 横山俊夫（以上所内）吉田城（文学研究科）松島征（総合人間学部）柏木隆雄 北村卓 内藤高（以上大阪大）小山俊輔 三野博司（以上奈良女大）柏木加代子（京都市芸大）小西嘉幸（大阪市大）丹治恒次郎（関学大名誉教授）
	古代イランにおける社会組織の再編成	ピエール・ドゥヴォー（甲南女大）アンヌ・ゴノン（同志社大）ジャック・ジョリー（英知大）近藤秀樹（大阪教育大・非常勤講師）阪村圭英子（京都市芸大・非常勤講師）鶴飼敦子（京都大人間環境学研究科博士後期課程）袴田麻祐子（大阪大文学研究科博士後期過程）佐野仁美（神戸大総合人間科学研究科博士後期過程）[海外協力者]：イヴ＝マリ・アリュー（トゥールーズ・ルミリエ大学）セシル・サカイ（パリ第7大学）
	堂山英次郎	
	百姓の成立：中国における国家の形成	
	よせて	
5月25日	馬韓から百済へ	渡辺信一郎
	殷周時代における畜産の国家的儀礼	吉井 秀夫
	岡村 秀典	
	集団労働体制からみたシュメール都市	
	国家の成立	前川 和也
6月8日	適応としてのラピタ人の拡散過程	
	石村 智	
	倭王権の形成と文物・祭式の流通	
	下垣 仁志	
	北朝皇帝の行幸再考	藤井 律之
6月22日	器物の生産・授受・保有形態と王権	
	森下 章司	
	境界の誕生	河野 一隆
	日本列島の国家形成と宗教政策	
	菱田 哲郎	
7月13日	国家形成前夜の遺跡動態	伊藤 惇史
	南レヴァントにおける都市の形成と展開	桑原 久男
	「地域」間関係の変化からみた中国中原王朝の成立過程	西江 清高
9月28日	報告書作成・最終討論	全員
<b>日仏文化交渉の研究</b> 班長 宇佐美齊		
2002年4月から4年間の予定で実施されている共同研究である。日本人にとってのフランス文化、フランス人にとっての日本文化、このふたつを問うことから始めて、具体的なヒトとモノの交流を重視しながら考察をすすめている。そのうえで日仏両文化の相互的な交渉がもたらした豊かな創造性とその		
	1月10日	マルローにおける東洋と日本 三野 博司
	2月16日	国際社会と古都奈良 高木 博志
	4月26日	井上哲次郎と1897年パリ万国東洋学会 ジャック・ジョリー
		戦前日本におけるフランス印象派音楽の作曲的受容 佐野 仁美
	5月10日	フランス詩の磁場 ― 富永太郎の「フランス詩ノート」と中原中也の「翻訳詩ノート」を中心に ― 宇佐美 齊
	5月24日	竹内勝太郎のヴァレリー 森本 淳生
	6月7日	山本芳翠『蜻蛉集』挿絵に関する考察 高階絵里加
	7月5日	L'autre pensée（他者の思考） フランシス・マルマンド（ゲスト）

マルセル・ブルーストの時代と日本の  
園芸植物の影響関係について

阪村圭英子

9月18日 「日本」を書く — ビエール・ロティ  
『お菊さん』の位置 — 大浦 康介  
〈水の風景〉を通して日仏の交流を考  
える 内藤 高

10月16日 反語的精神の共振 — 林達夫とジャン  
ケレヴィッチ — 近藤 秀樹  
九鬼周造の日本文化論とフランス

小山 俊輔

10月25日 マルロー『人間の条件』と日本  
三野 博司  
日本人にとってシャンソンとは何か  
— シャンソン受容史試論

松島 征

11月22日 木下杢太郎とフランス文化  
吉田 城  
岩野泡鳴とボードレール 北村 卓

12月18日 フロベールと日本趣味 柏木加代子  
洋学の系譜とフランス人による幕末日  
本のイメージ 柏木 隆雄

#### 領事館警察の研究

班長 水野直樹

近代日本が朝鮮・中国との間に結んだ条約に規定  
された治外法権は、朝鮮と中国（東北地方＝満洲を  
含む）に日本の領事館警察なるものを生み出した。  
朝鮮では1905年の保護条約まで、中国東北地方で  
は満洲国における日本の治外法権が撤廃されるまで、  
中国では汪兆銘政権期に治外法権が撤廃されるまで、  
各地の日本領事館に外務省から警察官が派遣され、  
様々な活動を行なった。在留日本人（後には台湾籍  
民・朝鮮人を含む）の保護・取り締まり、情報活動、  
相手国・欧米外交機関との折衝などである。

本研究は、近代日本と東アジアとの関係を考える  
上で重要な領事館警察の機構や活動、領事館警察が  
把握・認識した中国・台湾・朝鮮の民族運動、共産  
主義運動、労働運動などの動向等々を、日本史・朝  
鮮史・台湾史・中国史の研究者による共同研究を通  
じて解明しようとするものである。また、中国・朝  
鮮側史料、欧米（特に英仏）諸国の史料などを利用

して、中国・朝鮮政府の対応、中国人・朝鮮人の認  
識、欧米諸国の対応などについても検討を加えたい  
と考えている。

班員 高木博志 石川禎浩 村上衛 李昇燁（以  
上所内） 李俊植（外国人研究員、延世大） 永井和  
（文学研究科） 浅野豊美（中京大） 梶居佳弘（立  
命館大・非常勤） 桂川光正（大阪産業大） 近藤正  
己（近畿大） 副島昭一（和歌山大） 宗田昌人（文  
学研究科・院） 田中隆一（学術振興会特別研究員）  
廣岡浄進（大阪大・院） 藤永壮（大阪産業大） 松  
田利彦（日文研） 李ジョンミン（中央大・非常勤）  
（海外協力者） エリック・エッセルストロム（カリ  
フォルニア大学サンタ・バーバラ校博士候補） 辛  
珠柏（ソウル大） 鄭根植（ソウル大）

1月21日 「在満大使館警務部」設置問題

田中 隆一

2月25日 海峡兩岸社会と台湾総督府・対岸領事  
官警察 浅野 豊美

3月17日 19世紀末-20世紀初の在朝日本人社  
会と領事館警察

木村 健二

（ゲスト、下関市立大学）

4月21日 領事館警察のいくつかの問題について

水野 直樹

5月19日 間島在住朝鮮人の裁判管轄権をめぐる  
中日両国の攻防 — 『間島協約』を中  
心に —

白 榮勛（ゲスト）

6月2日 海外在留「日本国民」の居留禁止処分  
— 「清国及朝鮮国在留日本人取締規  
則」および「清国及朝鮮国在留帝国臣  
民取締法」を中心に — 李 昇燁

6月16日 間島における領事館／領事館警察と  
朝鮮人民会 — 1920年代における救済  
の発動 — 廣岡 浄進

7月7日 19世紀末-20世紀初朝鮮における日  
本人社会の形成と日本帝国主義 — 全  
羅北道群山の場合 — 李 俊植

10月6日 イギリスからみた日本の在中国領事館  
警察をめぐる問題 — 第一次大戦以降  
「年次報告書」を中心にしたごく簡単

- な紹介 — 梶居 佳広 荒牧  
 10月27日 上海共同租界警察ファイルについて 廣瀬  
 石川 禎浩 3月5日 山本序周のことは直し 横山  
 11月17日 『外務省警察史』を読む — 天津の部、 『難波鉦』梅之部六 藤袴 遠藤  
 その2 — 永井 和 3月12日 風呂屋・パノラマ館・芝居 — 「鄭考  
 12月1日 『斎藤實関係文書』（書簡）に見る1920 胥日記」の周辺 — 深澤  
 年代朝鮮総督府の国境警備問題 『難波鉦』梅之部六 手鑑 古勝  
 松田 利彦 4月17日 「文明と言語」 — 第3年度を迎えて —  
 横山  
**文明と言語** 班長 横山俊夫 『難波鉦』梅之部六 身の代 金  
 人間社会が安定し、しかもそれが文をなし明らか 5月1日 明治期の養生哲学と進化論 — 伊東重  
 なる状態に赴くとき、言語が変容しつつはたす役割 の場合 — 武田  
 は大きい。その諸相を、さまざまな事例研究を素材 『難波鉦』梅之部六 金精矢 深澤  
 に論じ合うとともに、現代の科学や技術の専門細分 5月15日 科学コミュニケーションの今 加藤  
 化による言語の流通力の衰えが社会にもたらしてい 『難波鉦』梅之部六 熊谷笠 田中  
 る閉塞状況に対して、その解決のための道を、班員 5月22日 尼崎言語力旧跡探訪  
 の協同により模索、提言することをめざしている。 (案内) 後藤、木村立夫氏  
 第3年度に入り、会場を地球環境学堂三才学林に 尼崎市役所近松課  
 移し、班員それぞれの研究報告のほか、これまで輪 6月5日 ネゴシエーションとアナロジー — 言  
 読をつづけてきた『難波鉦』の現代語訳出版の準備 語の発生と人類の進化 — 山極  
 を始めた。17世紀大坂の閉鎖安定空間の人間行動 『難波鉦』梅之部六 雨路 横山  
 と言語模様の一端が明らかになるだろう。またこの 6月19日 野生の科学と近代科学 — イヌイトの  
 班の研究成果を「ゲノムひろば」「京都文化会議」 知識にみる時間の戦術 —  
 等の公開シンポジウムに参画するかたちで活かした。 (ゲスト) 大村敬一氏  
 班員 宇佐美齊 岡田暁生 加藤和人 金文京 8月7日 「第3回 ゲノムひろば」  
 倉島哲 古勝隆一 小林博行 武田時昌 田中祐理子 (企画司会) 加藤  
 森本淳生 Susan B. Hanley Kozo Yamamura (出演) 栗木京子氏、菅野純夫氏  
 (以上所内) 山極壽一(理学研究科) 遊磨正秀 藤山秋佐夫氏、横山  
 (生態学研究センター) (以上学内) 荒牧典俊(大 8月19日 「第1回 鉦叩会」 — 『難波鉦』現代語  
 谷大学) 遠藤彰(立命館大学) 後藤静夫(京都市 訳稿作成 — 廣瀬、遠藤  
 立芸術大学) 斎藤清明(総合地球環境学研究所) 横山、他  
 廣瀬千紗子(同志社女子大学) 深澤一幸(大阪大 10月29 ~ 30日「京都文化会議2004 — 地球化時  
 学) 細田明宏(日本民俗音楽研究所) 山岸敦 代のころを求めて —  
 (JT生命誌研究館) ワークショップ2 〈こころの病理〉  
 1月24日 日韓両国の漢文訓読について 金 (企画) 川添信介氏、塩田浩平氏  
 『難波鉦』梅之部六 朧月 加藤 頼富本宏氏、横山  
 2月7日 テスト氏とは誰か? — ヴァレリーと (ゲスト) 伊東久重氏、奥乃 博氏  
 近代文学の問題系 — 森本 塩瀬隆之氏、朱 捷氏  
 『難波鉦』梅之部六 道芝 山岸 帚木蓬生氏、宮台真司氏  
 2月21日 道元と親鸞の開いたもの — 日本中世 セップ・リンハルト氏、後藤、山極  
 における「真言」基層文化の超克 — (司会) 横山

10月9日	武術の語り方	倉島	5月12日	身体と人種	岡田
	『難波鉦』金精矢 訳稿	深澤	5月19日	ボルノの身体とは何か	竹沢
10月23日	狩蜂をどう語るか	遠藤	5月26日	日本近代美術における裸体表現の導入	大浦
	『難波鉦』雨路 訳稿	横山			
11月20日	贋作について	宇佐見			高階
	『難波鉦』熊谷笠 訳稿	田中	6月2日	明治維新と天皇 ― 王権と身体	高木
11月27日	分節言語から情念の音声へ	岡田	6月9日	トラクターの歴史からみる労働と身体	藤原
	『難波鉦』松之部一 初冠	倉島			
12月25日	山本序周の書礼指南	横山	6月16日	近代医学の身体観	田中
	『難波鉦』初冠 続	倉島	6月23日	宗教と身体	小牧
			6月30日	学校と身体と私	谷川
身体の近代	班長 菊地 暁		7月7日	情報と身体	守岡
	「身体」を手がかりに異分野間コミュニケーションを少しでも風通しの良いものにする、そして、そのことを通じて近年急速にリアリティを失いつつある「学問」なる営為を少しでも風通しの良いものにする、本研究班の野望である。		7月14日	死と身体	森本

「身体」を手がかりに異分野間コミュニケーションを少しでも風通しの良いものにする、そして、そのことを通じて近年急速にリアリティを失いつつある「学問」なる営為を少しでも風通しの良いものにする、本研究班の野望である。

本年度は、班員による全学共通教育課目のリレー講義を開催、学生とのコミュニケーションを媒介として、身体をめぐる概念や方法の分野間における齟齬を対象化することを試みた。

班員 大浦康介 岡田暁生 加藤和人 倉島哲 小牧幸代 坂本優一郎 佐野誠子 高井たかね 高階絵里香 竹沢泰子 田中祐理子 谷川穰 藤原辰史 守岡知彦 森本淳生（以上所内）

1月14日 規律訓練・身体・メディア 田中

1月17日 超一 身体論

内田 樹（ゲスト）

運動像と無意識：ヴァレリー『カイエ』における身体の問題 森本

\*「フランス文学における身体―その意識と表現―」研究会（代表者：吉田城）と共催

2月25日 催眠と社会―19世紀フランスにおける精神医学の言説―

北垣 徹（ゲスト）

3月31日 現象学から見たベルクソンの身体論

小関 綾子（ゲスト）

4月14日 身体をマッピングする 菊地

4月21日 生命科学の身体観（生命観） 加藤

4月28日 音楽／西洋音楽／身体／聴覚／表象

## 人種の表象と表現をめぐる学術的研究

班長 竹沢泰子

この研究班は、社会や文化の諸側面で実在する人種の表象、マイノリティによる自己の人種的アイデンティティや経験の主体的あるいは戦略的表現、またそれらの社会的作用について共同研究を行っている。

具体的な研究テーマは、広告や風刺画、絵画、写真などにみられるビジュアルな人種表象、社会言説やマスメディア、文学などのテキストから解読できる人種表象、科学論文から医療の現場に至るまでに散見されるさまざまな集団にかんする科学的言説、社会運動・政治運動、音楽・芸術活動などにみる主体的表現などである。なお研究成果は、学術出版書として出版する予定である。

班員 石川禎浩 大浦康介 加藤和人 倉島哲 小関隆 小牧幸代 高木博志 高階絵里加 田中雅一 田辺明生 藤原辰史（以上所内） 蘭信三（留学生センター） 片山一道（理学研究科） 松田素二（文学研究科） 石橋純（東京大） 井野瀬久美恵（甲南大） 川島浩平（武蔵大） 北原恵（甲南大） 貴堂嘉之（一橋大） 栗本英世（大阪大） 黒川みどり（静岡大） 斎藤成也（国立遺伝学研究所） 坂野徹（東京理科大・非） 坂元ひろ子（一橋大） 崎山政毅（立命館大） スチュアート・ヘンリ（放送大） 富山一郎（大阪大） 水谷智（神戸市外国語大・非） 渡辺公三（立命館大）



- 1月10日 生命科学研究の社会的・倫理的議論の  
今：クローン研究，ヒトゲノム多様性  
研究などを例に 加藤 和人  
生物学的に人種は定義されるのか：形  
態学からみた現生人類集団の変異・多  
様性 埴原 恒彦（佐賀医科大）
- 1月11日 序論に追加すること 竹沢 泰子  
コメンテーター：貴堂嘉之  
フーコー「社会を防衛せよ！」 渡辺 公三
- 3月31日 英領インド期のセンサスにおける「宗  
教」と「人種」 小牧 幸代  
ナチズム・エコロジズム・レイシズ  
ム：ナチス農本主義と人種問題 藤原 辰史
- 4月1日 清末の“排満”主義と中国人類学の興  
起 石川 禎浩
- 5月7日 中国残留婦人の語りのなかの「日本  
人」：「日本人は優れている」という言  
説の意味をめぐって 蘭 信三  
変異の存在「理由」と変異の一側面と  
しての人種 溝口 優司（国立科学博物館）
- 5月8日 エイジアン・ブリティッシュの若者文  
化を巡る困難：実践，定位，流通，消  
費 五十嵐泰三  
交錯する人種と階級観：英領インドに  
おける白人性の構築をめぐって 水谷 智
- 6月11日 インドにおける人種と植民地的近代：  
民族，カースト，階級，ジェンダーとの  
交錯 田辺 明生  
アメリカ映画に見るエスニシティ表象  
の変遷：『王様と私』を題材に 島 大吾（文学研究科・院）
- 9月10日 武術における身体の表象とその彼方  
倉島 哲  
人種の表象をめぐる代表的研究から  
— Stuart Hall 著『Representation』  
Jan Nederveen Pieterse 著『White
- on Black: Images of Africa  
and Blacks in Western Popular  
Culture』および Richard Dyer 著  
『White』の書評 竹沢 泰子
- 9月11日 転位されるオリエンタリズム  
井野瀬久美恵
- 大東亜共栄圏構想と人類学／民族学／  
民俗学 — 人類学の戦時動員をめぐっ  
て 坂野 徹
- 10月8日 猿のようなパディ 小関 隆  
つくりかえられる徴：戦後における被  
差別部落の表象 黒川みどり
- 11月5日 西洋美術における異邦人表現の伝統  
高階絵里加  
コメンテーター：大浦康介，北原 恵  
表情なきドイツ人：「血と土」の農民  
表象をめぐって 藤原 辰史
- 11月6日 絵画から写真へ：非西洋諸民族表象に  
おける変化と無変化 落合 一泰（一橋大学）  
国民の「源流」？：「メスティーン神  
話」と大西洋岸クレオール「歴史」  
の狭間からみる先住民 崎山 政毅
- 空間の再審 — 人文・社会科学の新基軸を求めて —  
班長 山室信一
- 空間とは，時間とともに人間が自己と他者につい  
て認知していくための不可欠の枠組みであり，人間  
とその社会のあり方を追求すべき人文・社会科学に  
おいては，明確な概念規定に基づく体系化が要請さ  
れている。しかしながら，欧米近代の人文・社会諸  
科学においては，時間こそが基軸となっており，空  
間そのものを対象として捉えることに必ずしも成果  
を挙げてきたわけではない。しかも，グローバリ  
ゼーションの進行の中で空間の把握は時間や速度に  
よって置き換えられつつある。しかし，グローバリ  
ゼーションによって生活様式の平準化が進めば進むほど，気候  
や生態などの地理的条件，都市や建築などの空間形  
式の差異のあり方こそが，人間観・社会観として世  
界認識のあり方をますます規定していく可能性もま  
た否定できない。

この共同研究では、自然環境と人間活動の関係や、生活空間としての都市・建築などの形成のされ方、そしてさらにそれが世界認識としていかに把握されてきたか、といった学知と実践知そのものを再審に付し、そこから新たな人文・社会科学の基軸を析出していくことをめざしている。

班員 菊地暁 坂本優一郎 藤原辰史 谷川穰  
(以上所内) 早瀬晋三 (大阪市大) 中島岳志 (学術振興会特別研究員)

4月19日 はじめにー空間を対象化する意義をめぐって 山室  
5月17日 『地図が作ったタイ』 早瀬  
6月7日 『環境と人間の歴史』 藤原  
7月5日 『ポストモダン地理学』 菊地  
10月4日 共同研究の課題とその達成方途 全員  
10月18日 フーコーの空間論 山室  
11月1日 内村鑑三『地理学考』を読む 谷川  
11月13日～15日 所外調査  
12月13日 地域研究の論理と京都学派の哲学中島  
12月20日 所外調査

#### アジア・ネットワークの研究 班長 籠谷直人

本共同研究は、歴史的なアジア地域秩序分析をめざす。アジア地域秩序を規定した帝国・帝国主義・覇権の時代に即して、商人のネットワーク機能の変遷を考察する。メンバーは、17世紀から20世紀を対象とした歴史家で構成される。中国史、インド史、東南アジア史、日本史、アメリカ史の専門家が一同に会する共同研究を組織した。境界線に囲まれた主家国家間のシステムとは異なる、経済的な発展経路の存在を歴史的なアジアに探りたい。主権国家の境界線によってその伸張が制約されながらも、帝国の下で育まれたアジア商人のネットワークが、今日も市場秩序を提供しているとの視点にもとづいて、アジア・ネットワークを検討・考察し、主権国家間システムの相対化をめざす。

班員 岩井茂樹 村上衛 (以上所内) 小野沢透 (文学研究科) 井口治夫 (名古屋大環境学研究科) 上田貴子 (日本学術振興会特別研究員) 大石高志 (神戸市立外国語大国際関係) 岡本隆司 (京都府立大・文) 加藤雄三 (総合地球環境学研究所) 陳天

璽 (国立民族学博物館) 陳來幸 (兵庫県立大・経) 福岡正章 (同志社大・経) 水野祥子 (大阪大・文) 宮田敏之 (天理大・国際文化) 戴下信幸 (近畿大・経営) 脇村孝平 (大阪市立大・経)

4月9日 The Colonial Abolition of Muslim Slavery

William C. Smith  
(ロンドン大 SOAS)

4月16日 中国東北地域における山東商人

上田 貴子

4月25日 帝国論の射程ー『帝国の研究』(名古屋大学出版会, 2003年)をめぐって  
Bin Wong

(カリフォルニア大学アーヴァイン校)

4月30日 財界ネットワーク論 籠谷 直人  
1930年代アジア地域秩序論

籠谷 直人

5月14日 東アジア地域形成

白石 隆  
(京大東南アジア研究センター)

5月28日 1880年代の朝鮮における華僑商人の活動と開港場

石川 亮太 (佐賀大学)  
属国と自主のあいだ 岡本 隆司

6月11日 イースタンバンク問題とイギリス帝国主義

川村 朋貴 (富山大学)  
中華総商会ネットワークについて  
陳 來幸 (兵庫県立大学)

6月25日 19世紀後半の閩南商人の転換

村上 衛  
17世紀前半におけるイギリス東インド会社

藪木 信幸 (近畿大学)

7月9日 20世紀初頭における香港の銀本位制とアジアにおける国際金本位制の普及

西村 雄志 (大阪大学・院)  
木内信胤と戦後日米経済関係

井口 治夫

8月6日 (小樽) 遠藤乾 (北海道大学) 氏との共同研究 (グローバル・ガバナンスに

むけての知の再編) 活動成果の交換と  
検討会

9月4日 公開シンポジウム(中華会館, 神戸)  
「華僑・華人ネットワークの新時代」

趣旨:

華僑・華人ネットワークという言葉が叫ばれて久しい。ところがその実態がどのようなもので、具体的にどのように機能しているのかに関し、明確に定義することは難しい。今回「華僑・華人ネットワークの新時代」と題し、事業界の第一線で活躍されている在日華僑・華人のパネリストに、父祖の来日の経緯から、一族の家業の移り変わり、そして現在手がけているビジネスについてお話をうかがう。六名のパネリストがそれぞれ考える華僑・華人ネットワークとはどのようなものであるのだろうか。ご自身のアイデンティティ、国籍・婚姻・子弟の教育に対する考え方、文化的な帰属意識はどのようなものであるのかについてお話をいただいたうえで、コメンテーターの発言をうけて、皆様と一緒にこの問題について議論を深めたい。

パネリスト: 曹英生(南京町老祥記, 神戸華僑三世, 南京町商店街振興組合理事長) 陳優継(株式会社四海楼, 長崎華僑四世, 社団法人長崎青年会議所理事長) 金啓功(株式会社神戸華聯旅行社, 大阪・神戸華僑三世) 段玉容(光明株式会社, 大阪華僑三世) 梁建宏(セキ有限会社, 神戸華僑三世) 江川文平(日信商事株式会社, 神戸華僑三世) コメンテーター: 大迫麻記子(毎日新聞社神戸支局, 記者) 伊藤泉美(横浜開港資料館, 調査研究員)

9月17日 香港地域宗族団体における「家産」・  
「族産」と地域社会編成  
松原健太郎(東京大学)

10月8日 日本帝国史の課題と方法 ― 戦前期の  
在華紡を素材として 籠谷 直人

10月22日 英領期インドにおける飢饉・疫病と貧  
困 ― ナショナリストとリビジョニ  
ストの論争に関連して 脇村 孝平

11月12日 中東 小野 沢透

11月26日 明清帝国と朝貢システム 岩井 茂樹

12月18～19日 国際ワークショップ

Session 1: “Study on Empire”

“Considering the notion of Empire through  
the Japan’s experience of building state”

Naoto Kagotani

“Empire and Intervention: International  
Financial Policies of Leith-Ross”

Ken Ishida(Chiba University)

Session 2: Round Table Session “How to  
study “Networks”: Questions,  
Focuses, and Materials,” Part 1

Chen Laixing (Hyogo

Prefectural University)

Chen Tien-shi (The National  
Museum of Ethnology)

Kagotani Naoto Ueda Takako

Session 3: “Study on the Overseas Indian Net-  
works”

“Indian Merchants in Modern Japan: Histor-  
ical Overview with a Focus on the Re-  
sources of their Network”

Takashi OISHI (Kobe City

University for Foreign Studies)

“The Indian Diaspora in Japan and Japa-  
nese Pan-Asianism” Masataka Matsuura

(Hokkaido University)

Session 4: Round Table Session “How to  
study “Networks”: Questions, Foc-  
uses, and Materials” Part 2

Choi Chi-cheung (Hong Kong

University of Science

and Technology)

Chung Shu-ming

(Academia Sinica)

Ishikawa Ryota

(Saga University)

Lee pui Tak (The University  
of Hong Kong)

Liu Hong (Singapore

National University)

Murakami Ei

(Kyoto University)  
Ohishi Takashi (Kobe University  
for Foreign Studies)  
WU Xiao An (Peking University)

### 東方学研究部

#### 中国美術の図像学

班長 曾布川寛

古代、中世の美術において表現されたものは全て象徴的意味内容を有しており、それが何を表しているかを知ることなしに作品の理解はあり得ない。作品の背景には神話伝説、宗教的義軌、社会的情況などがあり、それらを踏まえて理解することが要求される。我々は中国の古代、中世美術を取り上げるに当たり、図像学の見地から考察を試みる。主たる対象は考古学的出土文物と、石窟寺院などの仏教美術であり、中国のみならず、インド、朝鮮、日本を含めて考察する。

#### 王玄策研究

班長 高田時雄

王玄策は唐の太宗から高宗の時代にかけて、数度にわたり正使あるいは副使としてインドに赴き、中印文化交流史に足跡を残した。その著とされる『中天竺国行記』は現在では散佚して、『法苑珠林』『諸経要集』『釈迦方誌』などに断片的な記載が見られるのみである。本研究班では、王玄策の使節に関する文献資料を集成し、読み解くことによって、当時の中国からインドにわたる地域の歴史・宗教・言語・文化などの情報を引き出すことを目的とする。本年は、関連資料の会読をほぼ終え、報告書の作成に向けて、テキスト校訂・訳注整理等の作業を開始した。

#### 漢字情報学の構築

班長 安岡孝一

本研究班の主眼は、漢字テキストをコンピュータというマナイタの上に載せて、何とかテキスト処理できるようにしよう、というものである。研究の対象としては、文字コード、組版、フォント、OCR、WWW、形態素解析、など多くの要素技術が考えられるが、本年度はとりあえず組版技術に絞って議論をおこなった。

#### マークアップー理論と実践

班長 C. Wittern

研究者にとっての電子テキストは、これまで印刷物の形を取ってきたテキストを、単に電子化したというだけのものではない。電子テキストは、研究者間の新たなテキスト伝達の手段であると同時に、テキストに関する解釈をも伝達する可能性を秘めている。本研究班の目的は、マークアップという方法論によって開かれる、新たな電子テキストの可能性についての基礎研究である。本研究班では、これを特に漢字文化圏のテキストを中心におこなう。

四月に発足して以来、マークアップ・テキストの理論についていくつかの側面から考え、実践の基礎となるマークアップのありかたに関する議論が展開された。

秋以降、班員諸氏が関わっているプロジェクトからの報告を受け、実際例を目の前にして、マークアップはどう行う、テキストのフィーチャはどう反映させている、などの問題を検討し続けている。

#### 中国文明の形成研究

班長 小南一郎

本研究班も、五年計画の最終年度を迎えた。本年度の前半時期には、班員による研究報告がなされ、それらをまとめて、年度末までに報告書を出版すべく、編集作業を急いでいる。年度の後半には、王国維『観堂集林』の会読が継続され、芸林のうち、尚書から爾雅まで、経書に関わる部分のほぼ全部を、五年間で読み終わったことになる。王国維の中国古代文化研究の方法をどのように継承してゆくのかは、班員各自の今後の具体的な研究活動の中に示されることになるだろう。

#### 中国の生活空間と造形

班長 田中 淡

中国の伝統的な生活空間とそれに直截的に関わる造形、すなわち具体的には住まい、宮殿、庭園、あるいは家具配置、室内空間、儀礼等々の諸相をとおし、その特質を探る。時代・地方を限定せず、また建築空間に限らず、精神空間を対象に含め、中国学の他の分野および東アジア、周辺地域の専門家の参加を得て、2003年4月から2年間の試験的研究として発足した。研究発表と並行して、前年より引き続き、明・方以智『通雅』宮室の会読を進めている。

元代の社会と文化

班長 金 文京

『事林広記』と『元刊雜劇三十種』の読解、訳注作成を並行しておこない、3年間の研究班を終了させた。なお『事林広記』学校類(上)の訳注を『東方学報』第76冊に発表した。『事林広記』の講読は次の研究班において継続し、元曲については成果を別途に発表する予定である。

中国近世日用類書の研究

班長 金 文京

本研究班は、前記の『元代の社会と文化』に引き続き『事林広記』の講読、訳注作成を行うが、特にその中の科学技術関係の記事に重点を置き、また明代の『万宝全書』など『事林広記』以降の日用類書をも視野に入れて研究を行う。

中国近世法制資料の研究

班長 岩井茂樹

2003年度に発足したこの研究班では、徽州文書中の明代裁判関係文書を中心とする法制資料を会読しながら、紛争解決の過程についての知識を獲得し、研究方法を模索することを目指した。中国社会科学院歴史研究所の阿風氏の協力によって、現在利用できる明代裁判関係文書のほとんどの電子テキストが提供されたので、岩井がこれを利用して全文検索システムを作り、ウェブ上で班員に公開した。このシステムを作るにさいして、文書の類型にもとづく分類と、朝代による年代の情報を付与した。単純なことであるが、同じ類型の文書を通覧することによって、その性格を明瞭に把握することができるようになる。一例を挙げれば、これまでしばしば「批文」の一種であると見なされていたもののなかに、文書作成を起案する様式の文書があることが分かった。この様式の文書は、「立案」と呼ぶべきものであろう。こうしたことは、地方の官府で作成された生の資料に触れなければ理解することが難しい。

元代の法制

班長 岩井茂樹

本年度から発足したこの研究班は、元朝時代の行政文書・法制文書の会読をつうじて、その時代の制度と社会について知見をひろめることを目的としている。参加者それぞれが、会読の作業のなかから研究すべき課題を見だし、この時代の制度と社会の

特質を理解する足がかりを得ることを期待している。とくに、前後の時代との連続と断絶という問題について洞察を深めたい。会読する資料として選択したのは『大元聖政国朝典章』礼部の部分(典章28～33)である。

三教交渉の研究

班長 麥谷邦夫

本研究班は、中国中世における儒仏道三教間のかわりをさまざまな角度から研究することを目的に、2000年度から5年間の予定で組織された。本年度は最終年度に当たるので、昨年度後半に引き続いて研究発表を中心に行い、それ以外は『茅山志』の解説を行った。

三国時代の出土文字資料

班長 井波陵一、富谷 至

最終年度に当たる今年度は、当初の目的であった本研究所所蔵の魏晉時代文字拓本の会読の成果を『魏晉石刻資料選注』としてまとめ、年度内の完成にむけて作業をすすめているところである。

その作業と並行して、前年に引き続いて張家山漢簡・二年律令を会読した。難解な部分が増え、その解釈をめぐる活発な議論がかわされた。時には一度の研究班で一本も読み終えることができなかったときもあったが、三分の一近くを読了、その成果として訳注を東方学報に公表した。

なお、当研究班で会読している拓本は、本研究所附属漢字情報研究センターHPにおいて公開されている。

\* 石刻拓本資料 <http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/>

20世紀中国の社会システム

班長 森 時彦

本研究班は、清末から現在にいたる100年間の社会システムの変動を多様な側面から総合的に検討することを目的として、昨年4月から5年計画でスタートし、本年が二年目となる。本年も昨年と同様に19世紀末から20世紀前半を中心とする各分野の報告が行われた。全体としては、対象年代が20世紀後半に広がったほか、教育史、外交史、地域史など近年研究が手薄となっている分野についての若手

による意欲的な報告が際だった一年であった。

#### 中国古代の基礎史料

班長 浅原達郎

2004年4月から新たに発足した研究班であり、中国古代、なかでも先秦時代の研究を志す学生のために、基礎的な学力を磨く場を提供する。今年度は裘錫圭氏の論文四篇を読んだ。すなわち「閱讀古籍要重視考古資料」、「斗卮和題湊」、「考古發現的秦漢文字資料對校讀古籍的重要性」、「簡帛古籍的用字方法是校讀傳世先秦秦漢古籍的重要根據」である。「閱讀古籍……」と「斗卮和題湊」については、その読書記録を『日古』第1号（6月18日）に掲載し、「考古發現的……」の読書記録は『日古』第3号（2005年1月）にて公表する予定である。

#### 漢字情報基礎論の試み

班長 武田時昌

本研究会は、パソコンの普及、書物の電子テキスト化やインターネットによる交信といった情報の形態の変容が急速に進む時代状況に即応して、中国学研究の学問的環境を新たに整備するために、漢字情報のあり方や諸問題について中国学と情報学の双方の専門的な立場から三年間にわたって検討を加えてきた。

#### 陰陽五行のサイエンス

班長 武田時昌

陰陽五行説は、物類や自然現象の法則性や相互関係を説明する原理として大いに用いられた学説であり、中国の諸分野において独自の理論構造を生み出すパラダイミ的な役割を果たした。これまでの研究においては、陰陽五行説の成立過程や配当説、それを援用した漢代の政治思想等に詳しい考察が試みられてきた。しかしながら、三国時代以降の史的展開や理論構造の特質については、十分な検討がなされているわけではないように思われる。そこで、自然科学に限らず思想、宗教から文学、諸技芸に至る多彩な分野において、天人感応、物類相感等を含めた陰陽五行の説明原理が、実際にどのように活用されているのかを分析し、包括的、複眼的な見地からその構造と特色あるいは限界性を考究したいと考えている。会談のテキストには、『五行大義』『医心方』を取り上げた。というもの、両書には多数の佚書を含

む典籍が集録されており、術数学や医学における陰陽五行説の中世的展開を概観することができるとともに、参加者の専門分野での陰陽五行説の様相を探る手がかりが得られるように思われたからである。なお、研究発表や陰陽五行関連の新資料、新研究の紹介も、随時行うことにしている。

#### 客員部門

##### 近代京都研究

班長 丸山 宏

かつての首都としての文化の長い「伝統」と、近現代の一地方都市という社会・経済的現実との相克が、近代京都の歴史を織りなしてきた縦糸と横糸と考えれば、「伝統」と現実の互いにずれた都市性格をいかに調整するかが明治以来現在まで京都の実際の政治的課題であった。このずれのなかに、近代京都のさまざまな問題への糸口が潜んでいると思われる。「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を総合的に論じ、さまざまな分野の具体的な主題を互いに論じながら、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成したい。

班員 大原嘉豊 菊地暁 金文京 高木博志 高階絵里加 谷川穰 水野直樹（以上所内）天野太郎 伊従勉 金坂清則 藤原学 山田誠（以上人間環境学研究科） 小林丈広 秋元せき（以上京都市歴史資料館） イ・ヒャンス（京都造形芸術大・非常勤） 石田潤一郎 笠原一人 中川理 並木誠士 日向進（以上京都工芸繊維大） 井上章一（日文研） 岡村敬二（京都学園大） 長志珠絵（神戸市外大） 小野健吉（奈良文化財研究所） 小野芳朗（岡山大） 黒岩康博（文学研究科・院） 才津祐美子（日文研 COE） 坂口さとこ 清水愛子 山田由希代（以上京都工芸繊維大・院） 鈴木栄樹（京都薬科大） 高久嶺之介（同志社大） 田島達也（京都市立芸大） 中村武生（佛教大・非常勤） 原田敬一（佛教大） 福井純子（立命館大・非常勤） 福島栄寿（真宗大谷派教学研究所） 芳井敬昭（花園大） 宇佐美尚穂（京都女子大研修員）

1月24日 大阪の町家の復元とミュージアム

新谷 昭夫

2月21日 日本近代美術の中の京都／近代京都

人 文 学 報

	の美術の中の東京	林 洋子	文学理論の研究	大浦 康介
3月13日	内裏・内侍所とその遺構について		ヴェーダ文献の生成と伝承の研究	藤井 正人
		岸 泰子	戦前期日本の工業化と	
	明治維新と京都の士族	落合	華僑ネットワーク	籠谷 直人
4月17日	伏見人形から見た近世京都の窯業		近代天皇制の文化史的研究	高木 博志
		木立 雅朗	人種・エスニシティ論	竹沢 泰子
	発掘調査からみた公家町の空間と生活		近代日本の芸術と西洋	高階絵里加
		内田 好昭	現代社会における生物学・生命科学	加藤 和人
5月29日	明治・大正期の京都府郡部の道路と道路行政 — 現宮津市域を中心に —		音楽におけるロマン派とメロドラマ的音楽	岡田 暁生
		高久	19世紀末イギリスのポピュラー・	
6月19日	近代京都の公衆便所	山崎 達雄	コンサヴァティズム	小関 隆
7月17日	近代の茶室・数寄屋の黎明と京都		南アジアの歴史人類学	田辺 明生
		桐浴 邦夫	ポール・ヴァレリーと20世紀の思想	森本 淳生
9月18日	近江商人が美術史に果たした役割 — 高田敬輔とその門流の画業を通して —		南アジア・ムスリム社会の社会構造	小牧 幸代
		國賀由美子	近代日本民俗誌システムの研究	菊地 暁
10月16日	史蹟名勝天然記念物保存法の成立と京都の動向	丸山	近世ヨーロッパの国際金融研究	坂本優一郎
11月20日	誰か故郷を思わざる — 大正期奈良における「郷土」認識 —	黒岩	近代西洋医学発展史研究および身体論	田中祐理子
11月28日	エクスカーション（天理大学参考館山本交通コレクション・大和郡山田洞泉寺遊廓）		ナチス・ドイツの農業問題	藤原 長史
12月18日	奉納絵馬からみる近代紀年祭の時代 — 金沢・弘前・仙台・京都 —	長 高木	近代日本における教育 / 教化 / 宗教の関係史	谷川 穰
			身体技法の認識論	倉島 哲
			近代朝鮮在住日本人社会の研究	李 昇燁
			東方学研究部	
			近代中国の綿紡織業	森 時彦
			中国古代の伝承文化研究	小南 一郎
			中国美術の様式と意味	曾布川 寛
			中国建築の様式・技術・空間	田中 淡
			道教思想研究	麥谷 邦夫
			敦煌写本の言語史的研究	高田 時雄
			中国古代中世の法制	富谷 至
			中国の小説、演劇及び説唱文学の歴史	金 文京
			清代の文化と社会	井波 陵一
			中国伝統科学の思想史的考察	武田 時昌
			近代中国の財政と社会	岩井 茂樹
			先秦時代の金文	浅原 達郎
			古代中国の考古学研究	岡村 秀典
			川西走廊の漢藏諸語の記述研究	池田 巧
			インド・中国における	
Ⅱ 個 人 研 究				
人文学研究部				
	シュメール行政・経済文書の研究	前川 和也		
	フランスの詩学	宇佐美 齊		
	前近代日本の文明史的研究	横山 俊夫		
	近代東アジアにおける日本の法と政治	山室 信一		
	フランス革命と近代的主体の成立	富永 茂樹		
	近代朝鮮の政治と社会	水野 直樹		
	在日米軍を中心とする軍事共同体の人類学的研究	田中 雅一		

仏教の学術と実践 船山 徹  
 文字コード理論 安岡 孝一  
 イスラーム東漸史の研究 稲葉 穣  
 仏教研究知識ベース — 禅仏教を例として  
 ウイッテルン, クリスティアン  
 中国共産党史の研究 石川 禎浩  
 秦漢制度史の研究 宮宅 潔  
 清代の道教龍門派の歴史及び内丹の研究  
 エスポジト, モニカ  
 高麗官僚制度研究 矢木 毅  
 ムガル朝時代の歴史叙述の研究 真下 裕之  
 中国近世の国家支配の研究 古松 崇志  
 文字定義情報に基づく文書表現系に  
 関する研究 守岡 知彦  
 客家語およびその周辺言語の記述研究 中西 裕樹  
 中国仏教絵画の研究 大原 嘉豊  
 中国古代中世の官制史 藤井 律之  
 モンゴル時代の文化政策と出版活動 宮 紀子  
 近代華南沿海地域の  
 社会経済変動についての研究 村上 衛  
 中国魏晋南北朝志怪の成立背景 佐野 誠子  
 明代後期北虜南倭時代の中国社会 山崎 岳  
 中国家具とその使用に関する研究 高井たかね

## 事業概況

### 夏期公開講座

〈記念日の創造〉

2004年7月 於 本館大会議室  
 2日 記憶を造形する命日 — ベンジャミ  
 ン・ディズレイリとプリムローズ —  
 小関 隆  
 フェンスの中の記念と祈念 — 米陸軍  
 生誕舞踏会 — 田中 雅一  
 3日 中国の祭日と死者を巡る物語り  
 佐野 誠子  
 思い出せない苦悩 — 中国共産党の記  
 念日 — 石川 禎浩

### 開所75周年記念公開シンポジウム

〈中国宗教文献研究国際シンポジウム〉

2004年11月 於 京都大学百周年時計台記念館  
 18日 漢文大蔵經の時期区分と特徴について  
 上海師範大学 方 廣錫  
 『佛典漢語詞典』の構想  
 創価大学国際佛教学高等研究所  
 辛嶋 静志

日本の古寫經と中国佛教文献 — 天野  
 山金剛寺蔵平安後期寫『優婆塞五戒  
 法』の成立と流傳を巡って

国際佛教学大学院大学 落合 俊典  
 洛州無影 — 『南海寄歸内法傳』中の  
 一文に関する新考察

北京大学 王 邦維  
 佛教研究における漢譯佛典の有用性

大阪大学 榎本 文雄  
 經典の偽作と編輯 — 『遺教三昧經』  
 と『舍利弗問經』 船山 徹  
 地婆訶羅に関する漢語史料

ナポリ東洋大学

アントニーノ・フォルテ

19日 『禪苑清規』にみえる唐・宋寺院の茶  
 禮と湯禮

中央研究院 劉 淑芬  
 唐代の石刻資料にみる僧侶と經典 —  
 大蔵經資料を中心として

イタリア国立東方学研究所  
 シルヴィオ・ヴィータ  
 竺法護譯『正法華經』における翻譯の  
 方法 — 第三章「譬喩品」を中心とし  
 て

フランス国立高等研究院  
 ジャン＝ノエル A. ロベール  
 漢文マニ教經典と景教經典の巨視的比  
 較

中山大学 林 悟殊  
 瓦礫の山から神を掘る — 唐代景教文  
 献と研究のイデオロギー

ウィーン大学 マックス・デアク  
 唐代の佛教と道教からみた外道 — 景



- 教徒  
 北京大学 榮 新江  
 『歸真総義』— 中央アジアにおけるその源流  
 神戸大学 濱田 正美  
 20日 浄明道の祖師許遜にまつわる物語の再検討  
 ワシントン大学  
 ジュディス・マギー・ボルツ  
 儀禮の解明 — 齋に對する陸修靜の影響  
 フランス国立極東学院  
 フランシスクス・ヴェレレン  
 清代における金蓋山龍門派の設立と『金華宗旨』 モニカ・エスポジト  
 天書雲篆 — 道教の符圖文献とその分析  
 四川社会科学院 李 遠國  
 靈寶の「天文」信仰と古靈寶經の教義の展開 — 敦煌本『太上洞玄靈寶真文度人本行妙經』を中心として  
 中山大学 王 承文  
 道教類書と教理體系 麥谷 邦夫  
 寶卷と明清の民間信仰 — 目連傳承を中心にして 小南 一郎  
 21日 デジタル化した古籍校勘版本の處理技術 — CBETA 大正蔵電子佛典を例として  
 国立台北芸術大学 釋 惠敏  
 大規模佛教文献群に對する確率統計的分析の試み  
 花園大学 師 茂樹  
 唐代ナリッジベースから見た禪宗  
 クリスティアン・ウィッテルン  
 雲居寺の碑文 — CD-ROM のための準備作業  
 ハイデルベルク大学  
 マティアス・アーノルド  
 道教研究におけるデジタル資源  
 スタンフォード大学  
 ファブリツィオ・プレガディオ
- 漢字情報研究センター講習会  
 • 2004年度漢籍担当職員講習会（初級）  
 第1日（10月4日）  
 漢籍について  
 東京大学東洋文化研究所教授 大木 康  
 漢籍目録の構造 — 漢籍整理の基礎  
 文学研究科助教授 宇佐美 文理  
 カードの取り方 — 漢籍整理の実践  
 山崎 岳  
 第2日（10月5日）  
 工具書について 藤井 律之  
 漢籍目録カード作成実習  
 第3日（10月6日）  
 文字コードとテキスト処理の歴史  
 ウィッテルン, クリスティアン  
 目録検索とデータベース検索 安岡 孝一  
 漢籍データベースについて 高田 時雄  
 漢籍データ入力実習（1）  
 第4日（10月7日）  
 漢籍目録を読む  
 千葉大学文学部助教授 古勝 隆一  
 漢籍データ入力実習（2）  
 第5日（10月8日）  
 NII 総合目録データベースと全国漢籍データベース  
 国立情報学研究所教授 宮澤 彰  
 実習解説 梶浦 晋  
 • 2004年度漢籍担当職員講習会（中級）  
 第1日（11月8日）  
 四部分類概説 宮宅 潔  
 中国目録学史（1）  
 諸子百家から子部書へ 武田 時昌  
 叢書 — 漢籍分類の特色 梶浦 晋  
 第2日（11月9日）  
 中国目録学史（2）  
 中国の写本について  
 滋賀医科大学医学部助教授 辻 正博  
 叢書と漢籍データベース 安岡 孝一  
 漢籍データ入力実習（1）  
 第3日（11月10日）  
 中国目録学史（3）

朝鮮の漢籍について 矢木 毅  
漢籍データ入力実習(2)  
第4日(11月11日)  
現代中国書について 村上 衛  
漢籍データ入力実習(3)  
第5日(11月12日)  
『東洋学文献類目』について  
富山大学人文学部助教授 森賀 一恵  
実習解説 梶浦 晋

## 所 員 動 静

- ・山本有造(人文学研究部)教授は定年により退職(3月31日付)。
- ・井狩彌介(人文学研究部)教授は定年により退職(3月31日付)。
- ・佐々木克(人文学研究部)教授は定年により退職(3月31日付)。
- ・小林博行(人文学研究部)助手は辞任の上(3月31日付)、中部大学人文学部助教授に就任。
- ・東郷俊宏(東方学研究部)助手は辞任の上(3月31日付)、鈴鹿医療科学大学鍼灸学部助教授に就任。
- ・堂山英次郎(人文学研究部)助手は辞任の上(4月1日付)、大阪大学大学院文学研究科講師に就任。
- ・古勝隆一(東方学研究部)助手は辞任の上(4月1日付)、千葉大学文学部助教授に就任。
- ・大浦康介(人文学研究部)助教授は当研究所(人文学研究部)教授に昇任(4月1日付)。
- ・田中雅一(人文学研究部)助教授は当研究所(人文学研究部)教授に昇任(4月1日付)。
- ・藤井正人(人文学研究部)助教授は当研究所(人文学研究部)教授に昇任(4月1日付)。
- ・加藤和人(人文学研究部)助教授は大学院生命科学研究所助教授に併任(4月1日～2005年3月31日)。
- ・丸山宏名城大学農学部教授は、客員教授(文化研究創成研究部門、4月1日～2005年3月31日)。
- ・緒形康神戸大学文学部助教授は、客員助教授(文

- 化研究創成研究部門、4月1日～2005年3月31日)。
- ・矢木毅宮崎大学教育文化学部助教授を当研究所(東方学研究部)助教授に採用(4月1日付)。
  - ・倉島哲氏を助手(人文学研究部)に採用(4月1日付)。
  - ・李昇燁氏を助手(人文学研究部)に採用(4月1日付)。
  - ・山崎岳氏を助手(附属漢字情報研究センター)に採用(4月1日付)。
  - ・高井たかね氏を助手(附属漢字情報研究センター)に採用(8月1日付)。
  - ・田辺明生大学院アジア・アフリカ地域研究研究科助教授は当研究所(人文学研究部)助教授に配置換(10月1日付)。
  - ・大浦康介助教授(人文学研究部)は、2003年12月22日大阪発、バリ島、ウブド、プリアタン及びオイスカ研修センター等に於いてインドネシアと東チモールにおける絵画制作支援及びパーフォーミング・アーツの調査を行い、1月5日帰国。
  - ・小牧幸代助手(人文学研究部)は2003年12月29日成田発、イスラーム布教協会、アル・ホダー・インターナショナル、政策学研究所、国際イスラーム大学イスラーム研究所及び宗教省に於いて海外の宗教事情に関する調査を行い、1月9日帰国。
  - ・ウィッテルン、クリスティアン助教授(附属漢字情報研究センター)は、1月7日大阪発、中華仏学研究所に於いて仏教情報学ワークショップに出席、中華電子仏典協会に於いて研究打合せを行い、1月14日帰国。
  - ・宮宅潔助教授(東方学研究部)は、文部科学省在外研究員旅費及び委任経理金により、1月8日大阪発、大英図書館及び大英博物館に於いて木簡及びその出土地に関する調査、スタイン・コレクション中の遺跡写真の調査を行い、1月15日帰国。
  - ・田中雅一助教授(人文学研究部)は、1月5日大阪発、バンガロール州立公文書館及びマイソール州立公文書館(インド)に於いて宗教事情につい

での調査を行い、1月17日帰国。

- ・富永茂樹教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、1月24日大阪発、社会科学高等研究院、国立図書館、パリ市立歴史図書館（フランス）に於いて「1960年代の研究」に関する資料収集及び研究打合せを行い、2月1日帰国。
- ・藤井律之助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月1日大阪発、スウェーデン国立民族学博物館に於いてスウェン・ヘディンコレクションの調査を行い、2月8日帰国。
- ・小牧幸代助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月2日大阪発、ジャーミア・ミッリヤ・イスラーミーヤ大学及びイスラームの聖地等に於いて南アジア・ムスリム社会における「預言者信仰」の詩学と政治学に関わる現地調査及び資料収集を行い、2月11日帰国。
- ・藤井正人助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、1月17日大阪発、マドラス、トリチュール、トリヴァンドラム等（インド）に於いてヴェーダ伝承の現地調査を行い、2月14日帰国。
- ・曾布川寛教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月5日大阪発、南京大学、南京博物院、南京市博物館、徐州市博物館、徐州市石刻芸術館、滕州市博物館、山東省博物館、山東石刻芸術博物館及び上海博物館に於いて中国美術の調査及び資料蒐集を行い、2月15日帰国。
- ・真下裕之助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月1日大阪発、アーンドラ・ブラデーシュ州公文書館（インド）に於いて「前近代インドにおけるイスラーム諸国家制度の動態的研究」に関する文献調査及び資料収集を行い、2月21日帰国。
- ・小関隆助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月11日大阪発、オックスフォード大学ボドリアン図書館に於いて「イギリス保守主義とディズレイリの記憶」に関わる史料調査・収集を行い、2月24日帰国。
- ・古松崇志助手（東方学研究部）は、京都大学教育

研究振興財団助成金により、2003年7月22日大阪発、北京大学中国古代史研究中心に於いて中国近代史研究のための漢籍文献史料調査、古跡文物調査を行い、2月29日帰国。

- ・菱谷邦夫教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月27日大阪発、天后廟（台湾）に於いて調査を行い、3月1日帰国。
- ・籠谷直人助教授（人文学研究部）は、日本学術振興会委託研究費により、3月2日大阪発、アジア研究協会（サン・ディエゴ）に於いて第56回アジア研究協会大会に出席及び学術報告を行い、3月7日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、3月5日大阪発、中国国家図書館に於いて漢字文献数拠庫に関する打合せを行い、3月7日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、3月2日大阪発、浙江大学日本文化研究所に於いて国際シンポジウム「明治時代的儒学」における基調講演、寧波市内に於いて資料調査を行い、3月8日帰国。
- ・水野直樹教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月5日大阪発、アジア研究協会（サン・ディエゴ）に於いて第56回アジア研究協会大会に出席及び学術報告を行い、3月9日帰国。
- ・加藤和人助教授（人文学研究部）は、3月7日大阪発、英国保健省及び下院科学技術審議会（連合王国）、ELSAGEN プロジェクト（アイスランド）に於いて遺伝情報に関する調査・研究に対する倫理的・法的・社会的問題についての海外動向調査を行い、3月12日帰国。
- ・田中雅一助教授（人文学研究部）は、京都大学教育研究振興財団助成金により、3月6日大阪発、ロンドン戦争博物館、在独米陸軍基地及び在伊米海軍基地に於いて軍隊展示調査、駐留米軍・在留米軍の調査を行い、3月13日帰国。
- ・富谷至教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月29日大阪発、ライデン大学及びミュンスター大学に於いて中国法制史に関する研究打合せを行い、3月14日帰国。
- ・竹沢泰子助教授（人文学研究部）は、3月9日成

- 田発, ロンドン人種平等委員会事務局及びバリ大学に於いて人種関係の実態と法制の調査を行い, 3月16日帰国。
- ・稲葉穰助教授(東方学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 3月5日大阪発, コロンボ大学, コロンボ博物館等に於いて南アジアにおけるイスラーム初伝伝説の研究に関する調査・資料収集を行い, 3月17日帰国。
  - ・森本淳生助手(人文学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 3月8日大阪発, フランス国立図書館に於いてポール・ヴァレリーに関する資料収集を行い, 3月21日帰国。
  - ・村上衛助手(東方学研究部)は, 日本学術振興会委託研究費により, 3月15日大阪発, 中央研究院近代史研究所に於いて中国近代史に関する史料収集を行い, 3月23日帰国。
  - ・麥谷邦夫教授(東方学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 3月15日大阪発, 北京大学, 社会科学院及び乾元敏に於いて江南道教関係資料蒐集及び現地調査を行い, 3月23日帰国。
  - ・高田時雄教授(東方学研究部)は, 文部科学省研究拠点形成費補助金により, 3月16日大阪発, バルセロナ大学, バチカン図書館及びイエズス会古文書館に於いて Sangley 語文献に関する調査及び資料収集を行い, 3月23日帰国。
  - ・金文京教授(東方学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 3月19日大阪発, ハノイ国立博物館及び漢喃研究院に於いてベトナム所存漢文説話資料調査を行い, 3月23日帰国。
  - ・安岡孝一助教授(附属漢字情報研究センター)は, 文部科学省研究拠点形成費補助金により, 3月13日成田発, アメリカ議会図書館及びニューヨーク公立図書館に於いて文字コード関連文献の所蔵調査を行い, 3月24日帰国。
  - ・東郷俊宏助手(東方学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 3月17日大阪発, 北京中医研究院及び崑崙飯店に於いて老中医臨床技術の系譜に関する資料蒐集及び研修等を行い, 3月24日帰国。
  - ・ウィッテルン, クリスティアン助教授(附属漢字情報研究センター)は, 3月17日大阪発, 中華

- 仏学研究所に於いて“XML Text Processing”ワークショップに出席, フランス規格協会に於いて TEI META ワーキンググループ・ミーティングに出席し, 3月25日帰国。
- ・池田巧助教授(東方学研究部)は, 2003年4月1日成田発, カリフォルニア大学バークレー校に於いて西南中国のムニャ語についての記述言語学的研究を行い, 3月31日帰国。
  - ・籠谷直人助教授(人文学研究部)は, 3月28日大阪発, 台湾中央研究院に於いて海外華人研究学会に出席及び研究報告を行い, 4月3日帰国。
  - ・宇佐美齊教授(人文学研究部)は, 3月5日大阪発, フランス, ツールーズ・ル・ミライユ大学及び国立東洋言語文化研究所に於いて講義, 講演及び文献資料調査を行い, 4月10日帰国。
  - ・池田巧助教授(東方学研究部)は, 4月16日大阪発, 香港城市大学に於いて第三屆兩岸三地藏緬語族語言学研討会に出席及び報告を行い, 4月19日帰国。
  - ・高田時雄教授(東方学研究部)は, 文部科学省科学研究費補助金により, 4月29日大阪発, シドニー大学に於いて新旧キリスト教ミッション出版資料の調査を行い, 5月3日帰国。
  - ・ウィッテルン, クリスティアン助教授(附属漢字情報研究センター)は, 5月11日大阪発, ベルギー・ロイヤルアカデミーに於いて TEI テキニカル・カウンシル年次会議に出席し, 5月17日帰国。
  - ・李俊植外国人研究員は, 5月19日大阪発, 延世大学に於いて「日本のフェシズム体制と朝鮮知識人」シンポジウムに出席し, 5月23日帰国。
  - ・富永茂樹教授(人文学研究部)は, 4月23日大阪発, フランス・社会科学院高等研究院, 国立図書館及びポルトガル・コインブラ大学に於いてフランス革命に関する資料収集を行い, 5月28日帰国。
  - ・曾布川寛教授(東方学研究部)は, 6月1日大阪発, 河北省文物研究所, 山西省考古研究所, 大同市博物館, 遼寧省博物館, 遼寧省文物研究所, 北京国家博物館及び社会科学院考古研究所に於いて中国美術に関する出土文物の調査を行い, 6月9

- 日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、6月10日大阪発、輔仁大学に於いて2004年古籍学術講演会に出席及び講演を行い、6月13日帰国。
  - ・ウィッテルン、クリスティアン助教授（附属漢字情報研究センター）は、6月9日大阪発、中華仏学研究所に於いて“XML Text Processing”ワークショップに出席し、6月14日帰国。
  - ・古松崇志助手（東方学研究部）は、京都大学教育研究振興財団助成金により、3月8日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いて中国近代史研究のための漢籍文献史料調査を行い、6月15日帰国。
  - ・麥谷邦夫教授（東方学研究部）は、6月17日大阪発、青島・太清宮、北京大学及び国家図書館に於いて調査及び道教関係資料蒐集を行い、6月22日帰国。
  - ・竹沢泰子助教授（人文学研究部）は、7月13日成田発、全米日系博物館に於いて日系レガシプロジェクト会議に出席、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、パークレー校及びハーバード大学に於いて国際交流基金アジア系アメリカ人調査を行い、7月25日帰国。
  - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、7月23日大阪発、中国国家図書館に於いて国際ワークショップ開催に関する打合せを行い、7月27日帰国。
  - ・曾布川寛教授（東方学研究部）は、7月16日大阪発、四川大学博物館、四川省博物館、綿陽市博物館、漢中市博物館及び国家博物館等に於いて中国美術の調査及び資料蒐集を行い、8月4日帰国。
  - ・山室信一教授（人文学研究部）は、7月23日大阪発、バンコク及びマニラの戦跡記念碑、戦争記念館及び博物館等に於いて「アジアにおける記憶遺跡と調査活動」に関する調査を行い、8月6日帰国。
  - ・金文京教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月9日大阪発、ソウル大学校奎章閣及び韓国精神文化研究院に於いて李朝期資料調査を行い、8月13日帰国。
  - ・曾布川寛教授（東方学研究部）は、8月6日大阪発、中国国家博物館、故宫博物院、甘肅省博物館、武威博物館等に於いて中国美術の調査及び資料蒐集を行い、8月16日帰国。
  - ・小南一郎教授（東方学研究部）は、8月22日大阪発、北京大学に於いて第1回北京フォーラムに参加及び論文発表を行い、8月26日帰国。
  - ・宮宅潔助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月18日大阪発、ミュンスター大学及びベルリン自由大学に於いて中国古代法制史の研究に関わる資料調査及び研究打合せを行い、8月30日帰国。
  - ・エスポジト、モニカ助教授（東方学研究部）は、7月18日大阪発、コレージュ・ド・フランス図書館及びフランス極東学院に於いて道教に関する資料収集及び会議に出席し、8月31日帰国。
  - ・池田巧助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、7月26日大阪発、中央民族大学、西南民族大学及び民族研究所に於いて資料収集、康定に於いてムニャ語及びカム方言の記述調査を行い、9月3日帰国。
  - ・岡村秀典助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月29日大阪発、中国・日照、瀋陽、栖霞及び煙台に於いて稲作遺跡調査を行い、9月8日帰国。
  - ・古松崇志助手（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金により、8月25日大阪発、フフホト内蒙古文物考古研究所に於いて「内蒙古文物考古研究所成立50周年国際会議」に出席、報告及び資料調査を行い、遼寧州遺跡、巴林右旗博物館、中京遺跡等に於いて史料、遺跡、古跡調査及び研究打合せを行い、9月9日帰国。
  - ・坂本優一郎助手（人文学研究部）は、文部科学省在外研究員旅費により、2003年9月15日大阪発、ロンドン大学に於いてロンドン・シティと財政軍事国家の関係に関する研究を行い、9月14日帰国。
  - ・佐野誠子助手（東方学研究部）は、8月16日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いて魏晉南北朝期の祠廟文化と文学の関係に関する調査研究を行い、9月14日帰国。
  - ・山崎岳助手（附属漢字情報研究センター）は、8

- 月16日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いて明代倭寇に関する調査及び資料収集を行い、9月14日帰国。
- ・竹沢泰子助教授（人文学研究部）は、9月12日成田発、ワシントンDCに於いて人種とヒトの多様性に関する専門家会議に出席し、スミソニアン博物館及びジョージ・ワシントン大学に於いて資料収集を行い、9月17日帰国。
  - ・村上衛助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月5日大阪発、中国常習市武進区における現地調査、常習市档案馆等に於ける資料収集を行い、9月18日帰国。
  - ・石川禎浩助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、9月9日大阪発、中国社会科学院近代史研究所に於ける学術講演、中国国家図書館、徐州師範大学及び上海図書館等に於いて資料調査を行い、9月22日帰国。
  - ・加藤和人助教授（人文学研究部）は、9月19日大阪発、英国ケンブリッジ、クラウンプラザ・ホテルに於いて開催の国際ハップマップ計画第5回運営会議に出席し、9月23日帰国。
  - ・岡田暁生助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月11日大阪発、ベルリン国立国会図書館及びバーゼル大学図書館に於いて19世紀ピアノ音楽における技術の諸相に関する資料調査を行い、リスト音楽院で開催の国際シンポジウムでパネラーを務め、9月25日帰国。
  - ・藤原辰史助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、7月22日大阪発、フンボルト大学及びWELEDA本社に於いて初期有機農業史料収集を行い、9月26日帰国。
  - ・李昇燁助手（人文学研究部）は、9月13日大阪発、釜山市立図書館、国立中央図書館、国史編纂委員会及び韓国精神文化研究院に於いて戦前朝鮮在住日本人社会関係資料調査を行い、9月27日帰国。
  - ・富谷至教授（東方学研究部）は、3月22日大阪発、ミュンスター大学に於いて東アジア世界の法制に関する比較史的研究を行い、9月29日帰国。
  - ・中西裕樹助手（東方学研究部）は、京都大学教育研究振興財団助成金により、7月1日大阪発、香港中文大学及び香港北部・広東省南部地域に於いて香港における客家語の衰退に対する広東語の支配的影響に関する社会言語学的調査及び関連資料収集を行い、9月30日帰国。
  - ・大原嘉豊助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月21日成田発、中国・安岳及び大足に於いて石窟調査を行い、9月30日帰国。
  - ・船山徹助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、10月13日大阪発、ブリティッシュ・コロンビア大学に於いてシンポジウム「アジアの仏教聖地」に出席・発表及び中国六朝仏教史に関する資料収集を行い、10月20日帰国。
  - ・田中雅一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月27日大阪発、シンガポール、オーチャード・パレード・ホテルに於いて開催の平成16年度アジア太平洋シンポジウムに出席・発表を行い、11月2日帰国。
  - ・岡村秀典助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月25日大阪発、陝西省及び山西省の古代遺跡の調査を行い、11月4日帰国。
  - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月1日大阪発、上海図書館に於いて徐家匯蔵書樓におけるキリスト教ミッション関連資料調査を行い、11月5日帰国。
  - ・藤井正人教授（人文学研究部）は、10月28日大阪発、ヘルシンキ大学に於いて現存ヴェータ伝承に関する共同研究打合せ及び資料収集を行い、11月6日帰国。
  - ・宮宅潔助教授（東方学研究部）は、11月11日大阪発、忠北大学校に於いて中国簡牘学国際学術大会に出席及び発表を行い、11月14日帰国。
  - ・藤井律之助手（東方学研究部）は、11月11日大阪発、忠北大学校に於いて中国簡牘学国際学術大会に出席及び発表を行い、11月14日帰国。
  - ・岡田暁生助教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月12日大阪発、

ヴェネチア音楽院及びパリ国立図書館音楽部に於いて19世紀ピアノ音楽に関する資料調査を行い、11月20日帰国。

- ・金文京教授（東方学研究部）は、11月17日大阪発、中央研究院中国文哲研究所に於いて「經典轉化與明清叙事文学」學術研討会に参加及び論文発表を行い、11月21日帰国。
- ・田中淡教授（東方学研究部）は、11月23日大阪発、中央研究院台湾史研究所に於いて「第二回被殖民地都市と建築—本土文化と殖民」国際シンポジウムに出席及び発表を行い、11月26日帰国。
- ・村上衛助手（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月21日大阪発、中央研究院近代史研究所に於いて中国近代經濟史に関する史料収集を行い、12月2日帰国。
- ・坂本優一郎助手（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月22日大阪発、ロンドン大学、イングランド銀行及びケンブリッジ大学に於いてイギリス財政革命の政治的・社会的影響に関する研究打合せ及び史料収集を行い、12月3日帰国。
- ・高木博志助教授（人文学研究部）は、12月2日大阪発、韓国・大雄経営開発院に於いて「批判と連帯のための東アジア歴史フォーラム」に出席し、12月5日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、12月2日大阪発、韓国・東亜大学校に於いて国際シンポジウム「東アジアの記憶における満州」に出席・講演及び史料調査を行い、12月6日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省研究拠点形成費補助金（一部先方負担）により、12月6日大阪発、台湾国家図書館に於いて数位時代漢学資源国際研討会に出席及び報告、台湾大学図書館に於いて研究打合せを行い、12月11日帰国。
- ・石川禎浩助教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月21日大阪発、上海市档案馆に於いて共同租界警察に関する資料調査を行い、12月26日帰国。

## 外国人研究員

- ・李 俊植 延世大学校国学研究院研究教授  
戦時体制期朝鮮社会に関する研究  
（文化連関研究客員部門）  
受入教員 水野教授  
期間 2月1日～9月16日
- ・MARMANDE, Francis パリ第七大学教授  
ジョルジュ・バタイユの日本における受容  
（文化生成研究客員部門）  
受入教員 大浦教授  
期間 4月1日～7月31日
- ・范 金民 南京大学歴史系教授  
清代契約文書の研究  
（文化生成研究客員部門）  
受入教員 岩井教授  
期間 8月15日～2005年2月14日
- ・HANLEY, Susan Bell  
ワシントン大学名誉教授  
日本の家屋・家族・社会、1600年から現代まで  
— ひとつの文化研究  
（文化連関研究客員部門）  
受入教員 横山教授  
期間 11月22日～2005年2月28日

## 招へい外国人学者

- ・WANG, Liping ミネソタ大学準教授  
駐防八旗と民族問題 — 清代の都市文化形成における満漢関係の研究  
受入教員 岩井教授  
期間 2003年9月19日～2005年9月18日（継続）
- ・RUOFF, Kenneth James  
ポーランド州立大学助教授  
「日本帝国」における紀元2600年祝典（1940年）の研究  
受入教員 高木助教授

- 期間 1月5日～8月31日  
 • CHEN, Jue カンタベリー大学講師  
 初唐伝奇小説研究  
 受入教員 小南教授
- 期間 1月12日～2月15日  
 • 劉 苑如 中央研究院中国文哲研究所副研究員  
 理與教：從《冥祥記》到《冥報記》の小説發展  
 受入教員 小南教授
- 期間 3月31日～4月26日  
 • SMITH, Henry  
 コロンビア大学東アジア学科教授  
 浪曲における赤穂義士の研究  
 受入教員 高木助教授
- 期間 4月1日～12月31日  
 • 池上英子 ニュー・スクール大学大学院教授  
 祇園祭の歴史社会学的研究  
 受入教員 高木助教授
- 期間 4月6日～7月20日  
 • 黄 蘭翔 中央研究院台湾史研究所副研究員  
 中国仏教寺院の平面配置の形成過程に関する研究  
 受入教員 田中淡教授
- 期間 7月14日～9月30日  
 • 蔡 榮婷 国立中正大学中国文学系副教授  
 祖堂集中禪宗詩偈研究  
 受入教員 高田教授
- 期間 7月15日～7月29日  
 • 鍾 淑敏 中央研究院台湾史研究所助研究員  
 アジア・ネットワークにおける台湾商人の活動  
 受入教員 籠谷助教授
- 期間 7月15日～8月31日  
 • 陳 昭容 中央研究院歴史語言研究所副研究員  
 先秦金文研究 — 青銅器銘文から両周時期の家族  
 と婚姻をみる  
 受入教員 浅原教授
- 期間 8月16日～9月10日  
 • 祝 平一 中央研究院歴史語言研究所副研究員  
 中国近世科学史の研究  
 受入教員 武田教授
- 期間 9月14日～11月12日  
 • 阿 風 中国社会科学院歴史研究所副研究員  
 中国明清時代における法律・裁判文書の研究
- 期間 9月15日～12月13日  
 受入教員 岩井教授  
 • 趙 誠乙 亜州大学校人文学部史学専攻教授  
 戦後日本における韓国学研究と韓国学界の影響  
 受入教員 金教授
- 期間 9月16日～2005年2月28日  
 • HUANG, Chi-chiang  
 Hobart & William Smith Colleges 教授  
 Pilgrims, Lay Buddhists, and Buddhist Identity in the Jiang-Zhe Region during the Yuan Dynasty  
 受入教員 ウィッテルン助教授
- 期間 9月20日～12月19日  
 • 陳 玉美 中央研究院歴史語言研究所副研究員  
 20世紀前半における台湾考古学  
 受入教員 岡村助教授
- 期間 10月15日～12月15日  
 • LEDDEROSE, Lothar  
 ハイデルベルク大学東アジア美術史研究所 Chair  
 房山石經の研究  
 受入教員 田中淡教授
- 期間 10月15日～12月19日  
 • SALOVA, Dita  
 カレル大学第一医学部医史学部門講師  
 東アジアにおける医学言説の歴史的研究  
 受入教員 武田教授
- 期間 11月20日～2005年11月19日  
 • YAMAMURA, Kozo  
 ワシントン大学国際関係学部名誉教授  
 国際比較経済史分析のための言語問題の考察  
 受入教員 横山教授
- 期間 11月26日～2005年2月28日  
 • 張 季琳 中央研究院中国文哲研究所 助研究員  
 日本における中国古典文学の研究調査  
 受入教員 小南教授
- 期間 12月1日～12月31日
- 外国人共同研究者  
 • 秦 小麗 陝西省考古研究所助理研究員



日中戦争期の中国で発掘した考古史料の再検討

受入教員 岡村助教授

期間 2003年4月1日～2005年3月31日（継続）

- 金 孝眞 ハーバード大学人類学科博士課程  
「京都都心部における京町屋再生運動と地域アイデンティティの変化」に関わる研究

受入教員 高木助教授

期間 2003年9月12日～2005年8月31日（継続）

- HENRY, Todd Andrew  
カルフォルニア大学ロサンゼルス校  
歴史学研究科博士課程  
植民地朝鮮の都市史についての研究

受入教員 水野教授

期間 4月1日～2005年3月31日

- 梁 仁實 日本学術振興会外国人特別研究員  
日本の視覚メディアにおける「朝鮮」表象

受入教員 水野教授

期間 4月1日～2006年3月31日

- FORTE, Erika Angela  
ナポリ東洋大学考古学研究センター  
研究協力員

唐宋期龍門の中核寺院大奉先寺の研究

受入教員 曾布川教授

期間 11月27日～2005年11月26日

## 外国人研究生

- LAPTEV, Sergey

漢字文化の拡大に関する考古学研究

受入教員 岡村助教授

期間 2003年10月1日～2005年3月31日（継続）

- AMES, Christopher

沖縄のアメリカ村 ― グローバルな軍事戦略とローカルな経済復興戦略の不安定な関係

受入教員 田中雅一教授

期間 2003年10月1日～12月31日（継続）

- 朝 克図

ブフ（モンゴル相撲）文化に関する文化人類学的研究

受入教員 田中雅一教授

期間 2003年10月1日～9月29日（継続）

- DE GANON, Pieter Sebastian

日本文化における肉食（1750年-1905年）

受入教員 高木助教授

期間 9月1日～2005年8月31日

- ODA, Ernani Shoit

在日ブラジル人との移民・マイノリティとの関係に関する実証的研究

受入教員 竹沢助教授

期間 10月1日～2005年9月30日

## 出 版 物

紀要

人文学報 第89号（紀要第146冊）

2003年12月30日刊

東方学報 第76冊（紀要第144冊）

2004年3月4日刊

東洋学文献類目 2001年度

2004年3月18日刊

所報

「人文」第51号

2004年6月30日刊

## 研究報告その他

中国近世社会の秩序形成

岩井 茂樹編

2004年3月15日刊